

坂戸市の概要

坂戸市は、埼玉県のほぼ中央に位置し、都心から 45km 圏内に位置している。昭和 29 年 7 月 1 日に、坂戸町、三芳野村、勝呂村、入西村、大家村が合併して坂戸町が誕生し、昭和 51 年 9 月 1 日に市制を施行した。地形は概ね平坦であり、中央部の市街地を田園地帯が遠巻きに取り囲んでいる。また、西部には秩父山系の先端がのびて、市の平野部の間に突き出し、その先端は城山となっている。この丘陵を背にして高麗川が南西から東へ流れ、北部で越辺川と合流し、市の東端に沿って南下している。

坂戸市の総面積は 40.97 k m²で、そのうち田畑が約 37%、宅地が 22%を占めている。昭和 40 年代から住宅都市整備公団などによる大規模宅地開発が進み、「北坂戸団地」、「東坂戸団地」、「西坂戸団地」、「若葉台団地」、「鶴舞団地」などの団地開発にともなって人口が急増、昭和 50 年から 55 年までの人口増加率は全国一の伸びを示した。昭和 47 年度を境に急激な増加傾向が見られた人口は、平成 15 年 11 月 1 日現在 98,931 人、世帯数は 38,218 世帯に達した。近年は人口が減少に転じ、世帯数は微増傾向で推移している。また、市の北西部にある入西地区には、都市基盤整備公団が総面積 119.3ha、計画人口約 9,800 人の街「坂戸ニューシティにつさい」を整備し、分譲中である。

交通は、市中央部の坂戸地区に東武東上線と東武越生線のターミナル駅である「坂戸」駅のほか、「北坂戸」駅、「若葉」駅があり、市南西部の大家地区には東武越生線「西大家」駅がある。バス路線は、東武東上線の駅から「坂戸ニューシティにつさい」「今宿・大橋」「東坂戸団地」「川越駅」「八幡団地」の各方面へと延びている。さらに平成 8 年から運行を開始した市内公共施設循環バスが 2 コースで 1 日合計 32 本を運行している。また、道路は市のほぼ中央部を南北に関越自動車道と国道 407 号が貫き、隣接の鶴ヶ島インターチェンジによって都心への利便性は良好である。

市の産業は、かつては米作りを主とした農業中心であったが、人口の増加に伴い商業が発展し、坂戸駅北口からのめぬき通り沿いに銀行やファッションビルが建ち並ぶなど、都市機能の再編と再開発が進められた。現在はそれぞれの商店街に空店舗を抱えるなど地元商店を取り巻く環境は厳しい。そのため、国道沿いの大型ショッピングセンターや量販店を中心に広域的な商業ニーズに応えつつ、商店街の活性化を図る「坂戸市商業ビジョン」を推進している。また、富士見工業団地を中心に近代化された優良企業の進出が進んでおり、今後も発展が見込まれている。